

クボタ ポット養液栽培システム ANSポット栽培

For Earth, For Life
Kubota

既存ハウスや遊休地の活用におすすめ!!

人工団粒構造培地

ANS培地 + 独立ポット + 専用コントローラー

どなたでもおいしい野菜が出来ます。

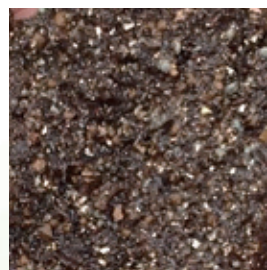


どこでも
だれでも

美味しい
こだわり

無駄が
無い

株同士の養水分の取り合いが無いから均一に生育



理想的な団粒構造で
保水力が抜群



全方向に根が伸び、毛細根が
よく発達



病害が発生したときは、発病株
だけを撤去



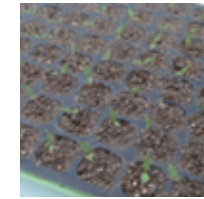
樹勢がコンパクトなので
密植が可能

根の環境を科学する

■トマト密植栽培の流れ

育苗から収穫まで約5ヵ月間 (1作3~4段取り)
※季節、環境によって変動します

①育苗



セルトレイに播種

②ポット定植

鉢上げ (播種後20~30日)



スリットポット スルーホールポット

スリットポットの内側にスルーホールポットを重ね、ANS培地を詰める



本葉2~4枚の苗をポットに鉢上げ

ロングポットへ定植 (播種後 40日~50日)



スリットポットをはずし、スルーホールポットをロングポットにのせる

③圃場設置



④栽培管理



芽欠き

ホルモン処理

誘引

クリップ止め

⑤収穫



⑥苗撤去



苗撤去

ダブルポット方式により、栄養成長から生殖成長への転換をはかります。

■栽培例 トマトの低段密植栽培 (10a)

- ・栽培株数：4000P P=ポット
- ・収穫量：
150g × 3.5玉 × 6段 = 3.15kg/P
※4段の場合は2kg/P
- ・出荷量：
3kg/P × 4000P × 2回/年 = 24t/年



■育苗ハウスの空き利用

既存の育苗ハウスを利用することで、導入コストを抑え、栽培に取り組みます。

- ・ポット栽培は、簡素な架台のため設置撤去が容易
- ・地面は何でも可



■代表的な作物

ポットの形状、培地容量を変えることでトマト以外の作物も栽培が可能です。



ナスの栽培 (バッグ)

全国 地域を問わず、お客様の目指す経営に合わせた提案をいたします。
まずはお問合せください。

【販売元】

クボタアグリサービス株式会社
農業施設部

〒338-0832 さいたま市桜区西堀5-2-36
TEL 048-862-1145 FAX 048-861-1594



【製造元】株式会社関東農産

農業施設
製品サイト



YouTube
クボタチャンネル



facebook
営農ナビ



製品の詳しいご相談は
下記までご連絡ください。



取扱説明書をよく読んで正しく安全に使いましょう。
農業機械はじゅうぶんに点検整備するように心がけましょう。

美味しい野菜づくりは **元気な根**から

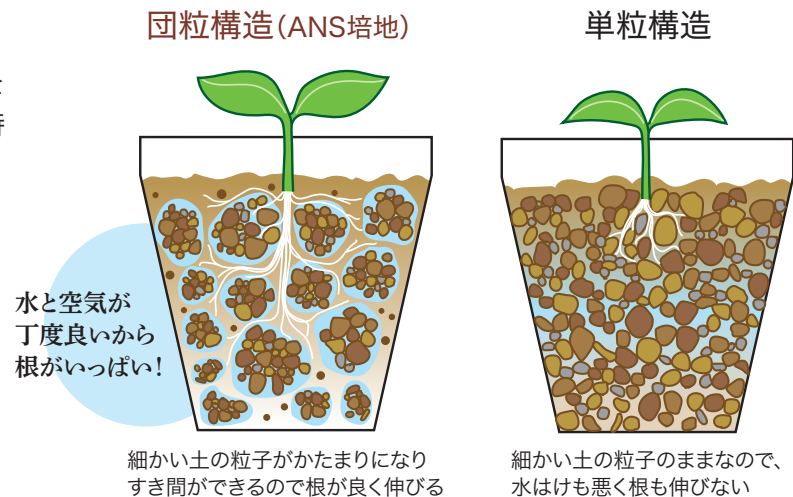
人工団粒構造 若い根と根毛
ANS培地が理想的な **働く根**の発達を促します

理想的な根域環境と 植物生理に基づいたかん水で
 美味しく健康な野菜をつくります

理想的な根域環境を作る「ANS培地」

保水性が良く、透水性が良い、相反する機能を両立

- 粒子一つ一つが水を保持
- 多かん水による根腐れ等を防ぎ、活力の高い根を維持
- 適度なすき間を維持



ANS培地とは
Aggregate 団粒
Nature 自然
Soil 土壌

水と空気が
 丁度良いから
 根がいっぱい!

■保水性の違い 同量の培土に同量の水を加え比較



■ANSポット栽培の特長

どこでも
 だれでも

- 土づくりが不要
- 少量培地で軽量だから作業が楽
- 独立ポット栽培だから場所を選ばない

美味しい
 こだわり

- 根毛の発達を促進
- 根が呼吸と吸水を同時にできる
- 必要な時に必要な量を供給できる施肥管理

無駄が
 無い

- 省力… コントローラーで培地水分値を管理
- 節水… 必要な時に必要な量だけ自動かん水
- 低コスト… シンプルな設備

■導入例

- 〈廃校跡地利用〉
 村と民間企業が共同出資
 10月から干柿作り、2月からトマトを栽培
- 〈大手企業から就農〉
 元航空会社のメカニック
 ANS培地の機能と構造が分かりやすく、生育コントロールがしやすい
- 〈連作障害回避〉
 トマト農家さん60代
 青枯れ病で収穫8割減を機にポット栽培を導入
- 〈自立支援センター〉
 障害者支援
 農機を使わない、作業が分かりやすい点が良い

安心のサポート
 圃場での事前研修、栽培指導、アフターサービスまで総合的にサポートします。

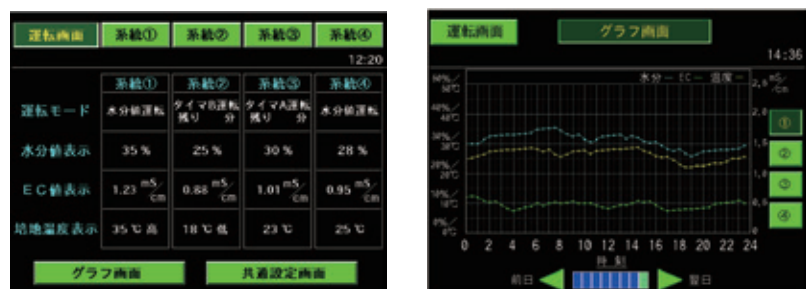


メロン栽培(ポット)

最適な土壌環境を維持する「専用コントローラー」

土壌環境の見える化

- 系統ごとに培地の体積含水率(VWC)、電気伝導率(EC)、温度(°C)をリアルタイムに表示



〈給液装置〉
 系統数: 4系統(標準) P=ポット
 1系統当りの管理数: 3000P/系統

〈コントローラー〉
 電源: 単相200V
 プレーカー: 10A×2



土壌水分に応じて自動かん水

- 要水量に基づき適切に自動かん水



Point!

- ① 廃液処理設備は不要
- ② 少量多かん水で無駄がありません
- ③ タイマー設定による窒素、リン酸、カリウム、カルシウム等の施肥も可能です